

# 若葉区区民対話会

## (議事録)

平成22年11月5日

15:00~17:00

若葉区役所2階 「講堂」

- 1 開会
- 2 若葉区長 挨拶
- 3 参加者自己紹介
- 4 意見交換

(以下、意見交換における議事録)

### 【若葉区長】

それでは、まずは皆様方から日ごろのお仕事の内容や感じていることなどについてお聞かせいただければと思います。

参加者の皆様全員にご発言いただきたいと思っており、時間の関係もありますので、まず最初はお一人様3分ぐらいでお願いします。

それでは、参加者Aさんから順次お願いします。

### 【参加者A】

下田農業ふれあい館を管理している組合でございます。現在、管理委託のほかに直売所、レストラン等をやっております。主に地元でとれたものを売っています。「しょいか〜ご」と同じようなお店を運営しております。

若葉区基本計画(素案)の一番最後に、「農業・農村の魅力向上」と書いてありますが、最近のテレビを見ますと、これを根本から覆すようなことが報道されています。皆さんもTPPということをご存じだと思いますが、最初4カ国で発足し、現在、またアメリカを含む5カ国が加入して、日本もそれに加入したいという話が今出ているところでございます。関税撤廃で自由貿易となりますと、例えば現在、米の関税が、700%であるので、米の関税なんかも、すべて関税が撤廃ということになると、日本の農業に大きいダメージがあるんじゃないか、それを政府がどのくらい負担して補えるかというお

話が出ていました。

こういうことも含めて、これから新しく出ている問題についても皆様と早急に、あるいは国が早急に考えなきゃならないような問題だと思って、お米を一生懸命つくっている関係上、こういう問題に市や区だけではどうにもならない問題ですけれども、上のほうに働きかけて、こういう問題が市民の影響にならないように頑張ってもらいたいと思う次第でございます。

**【若葉区長】**

それでは、続きまして参加者Bさん、お願いします。

**【参加者B】**

小倉町でドラゴンファームという観光農園をやっております。ブルーベリーが好きで、趣味で最初はやってたのですが、5年前に2,000本ぐらいになりまして、これじゃ採りきれないということで観光農園にしました。そして、80アールのブルーベリーと、今は、今年23アールの高設イチゴをしております。あと、自分の好きなカシス、ブラックベリー、ラズベリーを20アールつくっております。

初めは好きでやっていましたが、やはり生活となるといろいろ大変です。

イチゴ狩りは、健康な方はどこでも行かれるのですが、私は老人ホームや介護センター、障害者、養護学校の方、車いすの方が入れるようなイチゴ狩り、ブルーベリー狩りをしております。そういう方にたくさん来ていただきたいと思っております。

それと、お客様は東京からも多いし、千葉の方も多いのですが、帰りに必ず「どこかいいところありますか」と聞かれるので、「しょいか〜ご」を紹介しますと、次の年は必ず、「あそこはよかった」「新鮮な野菜がたくさん買えていい」というのをよく聞きます。皆さん、そこに寄って買って行って、とてもおいしいと言ってくれているのがまたうれしいと思っています。

**【参加者C】**

和泉町で観葉植物を中心につくっておりますけれども、自分は今やっている花づくりが好きで始めたんであって、今、我々の農業は、家業としての農業がほとんどなんです。家を継ぐという。だけど、これからの農業は家業じゃなく一つのビジネスとして、仕事として見ていかないと、さきほど話題のあった関税撤廃の時期が来たときに、果たしてどの程度が残れるかということは非常に不安な一面を持っております。

だけど、参加者Bさんのような観光関連であれば、人が来てくれる農業であり、比較的自由化になっても、人の好みというのは多種多様ですので、まず人が来てくれるような農業をするのが今後、非常にいいんじゃないかという思いは持っております。

### 【若葉区長】

最初に、お話がありました貿易の自由化に関する、いわゆるTPPの話ですが、現在、毎日のように新聞等で盛んに報道されているような状況です。皆さんも色々と意見をお持ちでしょうが、一般的に言われているのは農家の方は主に反対で、逆に工業などの方は賛成ということで、意見が分かれているようで、政治でも非常に大きな問題となっていて困っているというのが実情。片方立てれば片方が立たない、そんなような状況のようですね。

この問題については、国に働きかけてというご意見もありましたが、非常に大きな話なので、区役所という単位ではなかなか難しいところもありますけれども、このようなご意見があったことというのは承知いたしました。

それと、こういうことが実施されると、米などの価格に非常に大きな影響が出ます。米の価格も今年は例年より少し生産量が多かった影響などもあり、値段も少し昨年から見ると下がっているような状況です。

それと、観光農園についてですけれども、区役所としても、観光農園に出かけられるような人については、養護学校や老人ホームに向けて保健福祉センター等でも機会をみてPRしていきたいと思っております。

それと、これからの農業は家業を継ぐだけではやっていけないというお話がありましたが、これからの農業は農業生産者が生産して出荷するだけではなくて、消費者や関係団体と連携して取り組んでいく必要があると考えております。現在作成中の若葉区基本計画でも、都市と農村との交流を進めることや見せる農業の演出みたいなことも必要だと考えて作成しております。

それでは、続きまして、参加者Dさんお願いします。

### 【参加者D】

私の農業は、息子が直売関係で「しょいか〜ご」にお世話になっております。私は米と落花生、露地野菜などをちょっとした面積でやっていて、主は市場出荷ですが、安値安定というような現状の中で農家は苦慮しております。

それから、もう一つお願いしたいのは、新規就農者。千葉市は3年計画でやっいるのですが、何人か取り組まれております。そういう方の出会いがありましたら、よろしくご支援、ご協力お願いしたいと思います。

新規といった関係上、土地の貸し借り、それから地域で市のほうにも要請しているんですけど、やはり新しい方がポンと農家をやっても、技術的にも機械力でもなかなか難しい。だから支援組織をつくってほしいと考えます。

### 【参加者E】

私は畜産を営んでいます。千葉市の場合は肥育、それから養豚、養鶏というのも大分減ってしまいましたが、酪農の方はかなり残っています。市町村合併で南房総市が1つになるまでは、千葉市が県内では一番の乳牛の頭数・生産量を誇っていたということになっています。大半が緑区と若葉区に集中しています。以前は他区にもあったんですが、やはり環境問題等、周りが開発されてくると難しく、現在、千葉市では緑区、若葉区あたりでないとなかなかできないということだと思います。

牛乳というのは個人で販売できません。今までは千葉県が1つになって販売していたのですが、現在はさらに関東が1つになって、関東がまとめて乳業とかと交渉して販売するというところになっていて、そういう特殊性があります。

ご承知のとおり牛乳の消費も落ちていまして、酪農家戸数も減っているのですが、さらに消費の落ち込みが大きいということで、我々も消費者に実際の牧場、そういう酪農の現場を見に来てもらって、そこで酪農に対する理解とか、命あるものを育てて、そこから牛乳が生まれてくるんだということを知ってもらうために、積極的に特に小学校の生徒さんの受け入れなんかを実施しています。そういう点で言うと、若葉区というのは、千葉酪農さんという1つのプラントもありますし、隣接して千葉市の乳牛育成牧場というのがあります。さらに、生産者もいるということで、消費者と生産者の交流の場としては非常にいいのではないかと考えています。

また、今までは若い世代が、酪農というのは休みがないということで、どんどん勤めに出ていたのですが、しかし、日本の経済が厳しくなってきたこともあるんでしょうが、変わってきて、勤めに出ていた若い世代が何人か戻ってきて、酪農を継ぐというようなこともでてきます。それから、廃業になる、後継者がいないという方でも、施設・乳牛をそのままにして、酪農をやってみたいという方があれば、その人たちに経営を任せてみたいという考え方の人も出てきています。酪農というのは、子牛から成牛になるまで約3年かかりますので、やっぱり5年、10年という長期の計画がないと、なかなか我々のほうも設備投資ができません。ただ、残念ながら、現在は単年ごとに状況によってそういったものが変わってしまうということで、それも若い世代の人が将来の酪農に対して非常に不安感を持っているということなのだと思います。

私も3つ移転して、若葉区が最後ということは、次に酪農で移転することはもう考えられません。これは周りの、近隣の人の同意が今ないと、そこで新規に開くということができませんので、ですから何とか現在のところで頑張っていきたいというふうには考えております。

### 【参加者F】

私は東部で露地野菜、ニンジンを中心にやっているのですが、その中で、一部誉田と高田の人が入り

ますけども、千葉東部地区出荷組合連合会といった約90名の組織の中で動いています。その部会も連合会も毎年のように人数は減っていていますし、高齢化もしています。そういうのが現状なのですけれども、その中でいろいろな活動をしているわけです。

まず1つ目は、13年ぐらい前に環境保全型農業というのに取り組んだのです。なぜかといいますと、せっかく地元の野菜があるのに、千葉市が学校給食に使っていなかったのです。なぜかといいますと、子どもたちには、要は、減農薬や減化学肥料の品物を使いたいという形でしたので、「じゃあ取り組みましょう」と言って、環境保全型農業というのに取り組んだのです。

その後に、県で言いますと、エコ農産物も始まったのです。それも県に申請して、県の第1号でエコ農産物として認証されている。それから、JAで言いますと、もっと安心農産物、国の特別栽培農産物、これも、みんな認定されています。そういう品物をつくっていますけども、値段的には、幾らか高く売れるというぐらいで、ほとんど変わりません。

そういう中で、あと、東部連合会の中でも地産地消というので、千葉市場にもかなりの量を出荷していますし、あと、食育の関係で、出張授業に行っています。ほんとうは来てもらうのが一番いいのですけども、なかなか来てくれないということで、こっちからいろんな資料を持って各学校に行きまして、出張授業を行っています。また、私自身も、地元の小学校なんですけども、地元の3年生が毎年のように社会科見学、それから体験学習で来てもらっています。今年も12月1日か2日に来るんじゃないかなと思っています。

それと、最後に1点、これは要望とかになってしまいますけれども、今まで区になって十何年かになると思うんですけども、区役所と農業という関係が1つも感じられなかったんです。もう少し区役所でも、農業に取り組んでいるということがもっと区民にもわかるようにしてもらったほうがいいんじゃないかという気がします。

#### 【若葉区長】

最後にお話のありました、区役所が今まで農業に関係してこなかったのは、ご指摘のとおりで、区役所の様々な課を見ても、農業部門というのは1つありません。しかしながら、先ほど若葉区基本計画（素案）をご紹介しましたが、この区の基本計画は本年、市内の6区それぞれで作成しています。その中で若葉区の特徴として、若葉区は千葉市全体の農業面積・戸数で4割以上を占めているということもあり、若葉区の大特色のひとつは農業であるということで、このような形で位置づけを予定しております。

これからの区行政は、この区基本計画をもとに今後10年間、進めていくような形になります。技術的な面は農政センター等にお任せするわけですけれども、市民との触れ合いとか、情報発信などの面で

これからは区役所も農業について関係を深めていきたいと考えております。

それと、参加者Dさんからご意見のありました新規就農者につきましては、農政センターで農業をやってみたいという人を年間5名程度、募集していますので農政センターさんからご発言をお願いします。

**【農政センター】**

新規就農の実際の支援はもう既に始めておまして、機械の貸し出し、またこれは一般の事業と一緒になんですけれども、施設、機械購入などにつきましては、新規就農者には大分優先的にそのような助成金が出るようになっております。また、基本的には昨年あたりから融資制度というのが、国も含めて融資制度に転換していつているので、補助金だけだと限定的になるということで、融資制度の利用も、これは農協さん経由になりますけれども。

**【参加者D】**

施設関係の補助は何人かもらっていますよね。ただ、一般的な田畑の場合、新規就農者は長く、安心してできるようになるには二、三年は無我夢中でやっておりますので、その辺、気配りをひとつお願いしたいと思います。

**【農政センター】**

なるほど、わかりました。

**【若葉区長】**

それでは、参加者Gさんお願いします。

**【参加者G】**

それでは、私どもJA千葉みらいで運営しております「しょいか〜ご」の概要と状況のほうを若干触れさせていただきたいと思います。

「しょいか〜ご」につきましては、先ほど下田ふれあい館と同様に、地元の農産物を売るという使命でやっております。また、「しょいか〜ご」につきましては、JA千葉みらいの直営店として平成17年12月にオープンして以来、5年を経過するところです。そういった中で今現在、売り場面積につきましては960平米ございます。これにつきましては、県内でも最大級、東日本でも今のところは最大級でございます。

農協の事業の中では、ファーマーズマーケット事業というのですが、非常に農協でも関心が高くなりまして、全国から日々視察も受け入れをしているところです。先日も、NHKの「あさイチ」という番組の生中継で、「しょいか〜ご」から中継があったのですが、こういったメディアを活用して、全国の直売所が地元地産地消という意味の中でどんどん活発化していけばいいのかなと私は常日ごろ感じておるところです。

そういったところで、「しょいか〜ご千葉店」につきましては、若葉区、緑区の生産者の方が中心です。中央区や花見川区とか千葉市内からも入りますけども、やはりメインとなるところは若葉区、緑区  
の生産者。この生産者の協力がなければならぬお店ということで私は自負しております。

そういったことで、しょいか〜ごがオープン来、私が感じているところは、地産地消ということで、微力ですけども貢献しているのではないかと私は感じています。なぜかという、今までなかなか地元  
で生産されたものが地元のお客様・消費者の方が食べていたかという、そうでもなかった。どこへ行  
けば地元の野菜が買えるのかといった中で、この「しょいか〜ご」ができたことによって、地元の野菜  
は「しょいか〜ご」に行けば買えるといったお客様の声もちらほら出てきたということで、これにつ  
きましては非常に貢献度が高いのかなと感じているところでございます。

ただ、まだまだうちのお店も地元の農産物では足りないということで、不足部分を埋めることがある  
んですけども、これはJAという大きな繋がりというか、全国のJAとの連携の中でいろいろ商品の行  
き来をしております。先ほどお話がありました東部連合会のニンジン等がありますけども、これもうち  
で買い取らせていただいて、それを全国のファーマーズマーケットに時期になると送ったり、全国の  
JAとのおつき合いも徐々にですけども始まっています。

やはりJAという看板は、お客様から見ると信頼感というのは少しでもあるのかなと感じております。  
特に店内ポップを見ても、「JAどこどこ」「JAどこどこ」という産地名を入れると、お客様はそこに  
安心感が生まれてくる。そういったことで、大きな意味で地産地消、地産全消といった言葉を使いま  
すけども、農産物直売所のあり方を今後も生産者と消費者との交流の場としてお店がパイプ役としてあ  
ればいいのかと感じております。

あと、ここ最近の情勢ですけども、やはり非常に不景気というか、景気が低迷している中で、お客様  
の動向としては買い控えというのですか、無駄なものは買わないといった現状がありまして、うちのお  
店も今までは大分よかったですけども、なかなか厳しいという現状あります。ここ最近、お客様も減っ  
ているという現状があります。9月期は猛暑ということもあり、1カ月間で約9,000名のレジ通過者  
数が減りました。これは非常に脅威だったんですけども、うちのお店の客層というのは年齢が高いん  
ですね。多くの年配の方がいらっしゃる。暑いと買い物に出てこないという、それが大きな原因だっ  
たのかなと考えています。それでしたら、また涼しくなれば出てきてくれるということで、それを待  
っているのです。

ただ、年配の方の何がいいかという、年配の人のほうが料理をする。そうすると、野菜を買って  
いただける。若い人たちだと、どちらかというと簡単に済ませてしまう、料理も面倒くさくてやらない  
といったこともあるんですけども、やはり年配者の方は料理を楽しむといったことで、非常に買い上げ点

数とかは多くなる、そういったことも、お客様の要望とかをぜひ生産者の方に伝えて、よりお客様目線を感じながら店の運営をしていきたいと感じているところでございます。

**【若葉区長】**

少し、私のほうから質問をよろしいですか。

先日、私もこの対話会があるということもありましたので「しょいか〜ご」伺いました。そこで『きちんとさん』というこの冊子を購入させていただきました。これは農産物加工品の知識と心得ということで、「しょいか〜ご」に出す方の加工品の心得が書いてありますが、非常に厳しくて、衛生品質管理、食品表示、保健所への提出の書類、食中毒などについて、すごく細かく書いてあります。実際、農家をやっている方がこの本を読んで、この本のとおりやれるのかちょっと不安に感じました。これから農家をやっている人の高齢化も進んできますので、この本のとおり、できるのかなと思ったのですが、どうなのでしょう。

**【参加者G】**

そちら、『きちんとさん』という冊子は改訂版なのですが、最初に『きちんとさん』をつくったときには、加工品の出荷者の方にはすべて無料で配付して、マニュアルということでお配りさせていただいております。製造する責任、うちは、お店としては販売する責任。やはりお金を取る以上はきちんとしていなければいけないということで、うちのお店につきましては、加工品については食品衛生責任者講習会を必ず受けるという、これが義務です。受けないと登録できません、加工出荷ができません。あと、検便検査を毎月義務づけています。あとは細菌検査等も時期によっては抜き打ちで行っています。

意識を高めてもらうということが最大の目的なのですが、農家のつくる素朴な味は非常にいいんですけども、ただ、製造現場が不衛生であってはならない。やはり衛生面につきましては厳しくやっていったほうが、何かあってからでは遅いといった観点で、そういったマニュアルをつくってやっています。

**【若葉区長】**

ありがとうございました。 続きまして、参加者Hさん、お願いいたします。

**【参加者H】**

うちは野菜と切り花をつくっているんですけども、高齢化によって人手がなくなり、うちの近所でもみんなほとんど高齢者になっちゃっているもので、畑とか何かがみんな荒れちゃっているんです。そうすると、害虫駆除の問題が出てきますけれど、農薬をたくさん使わなきゃいけなくなっちゃうんです。その辺が困っているのです。「しょいか〜ご」さんにお世話になっているんですけど、もし周辺で使った農薬が飛んできてしまった場合に、履歴と違うものが出てきてしまったりして、そういう場合が困っ



ちゃうんです。だからといって、年中、周り中草刈しろって言うわけにもいかないし。もうあきらめちゃっている人が多いもので、ほとんど山みたいなのです。畑じゃなくなっちゃっていますからね。どう管理していいものか、自分の品物をどんどん悪くしているような感じです。その辺が今、ちょっと困っています。

**【若葉区長】**

農家をやる方の高齢化の問題というのは全国的な問題で、先日2010年の農業センサスの結果が出ました。5年前と比べて平均年齢が2.6歳上がって65.8歳になっているという結果が出ていました。また、農業就業人口が全国で約75万人減っている状況です。

それと、害虫駆除のための農薬を使用しているということで、耕作放棄地が周りに増えているということですか。

**【参加者H】**

そちらに薬をかけて殺虫しないと、耕作しているほうに入ってきてしまいますから。

**【若葉区長】**

耕作放棄地は、1つはやはり高齢化で耕作がなかなかできないということと、田畑の生産性が低い土地については耕作放棄地がだんだん増えてくるということで、耕作放棄地の問題は若葉区だけではないですけれども、特に多いということは聞いております。農業人口が年々減って、農業従事者の高齢化が進む中で、耕作放棄地を元に戻すというのは非常に難しい問題です。いわゆる耕作放棄地を減らすためには、農業生産で所要の所得が得られるようにならないと耕作放棄地の問題というのはなかなか抜本的には解決しないと思っております。

次に、参加者Iさん、お願いします。

**【参加者I】**

私は多部田町でもう25年くらい、市民農園をやっています。ほんとうに素人が1区画3坪ぐらいの広さなのですが、募集とかは全部農政センターのお世話になって、それで私はただ土地の利用を提供しているだけです。初めて来た人やなんかは、自分ところへ、いつ頃に種をまいたほうがいいとか、いろいろ相談を受けます。それはもう熱心で、2・3年もやると、どこでもかなわないようないい物を作るようになって。一回やった人は、かなり長く続けます。同じ場所で10年ぐらいやっている人も結構いまして、非常に熱心にやっておられます。

先ほど、参加者Hさんが言ったように、うちも反対側の敷地は、時々トラクターをかけるぐらいで荒れてしまっていますので、市民農園の利用者の方から、その虫や何かを何とかしてくれと言われているのです。

私も兼業なもので、専業じゃないもので、それで市民農園にしたんですけども、利用者が非常に熱心にやっているのと農政センターにお世話になって、今のところ、あんまり空いている区画もなく順調にやっております。

**【参加者 J】**

私は下田町で農薬、化学肥料を使わない農業をやっております。生物多様性ということを念頭に、言葉だけではないほんとうの安全、人がほんとうに求めているものは何かということで直接消費者に販売しています。

私は、新規就農制度の3番目の募集で最初に就農した者でございます。制度を利用させていただいて、農家になりました。生まれは北海道で農家をやっておりましたので、ある程度わかってはいたんですが、研修は非常に役に立ちました。

有機農業をやっている仲間と有志で新規就農者の支援をしています。畑を案内したりとか農業人フェア、池袋などに行きまして、新規でやりたいという人を案内したりとかして、そういう活動もしております。

そういう関係で、就農支援なんですけど、機械や資金というのは幾らでもどうにかなることだと思います。一番大切なのは畑よりも生活の基盤だと思います。僕の場合、就農したときは住む家はあったので、スムーズできたんですが、何も知らない土地に来て、畑はあるけど、一番大事なのは、そこに生活の基盤として住むところをどのように支援してくれるかということが最も大切なんではないかと思っています。その辺を、就農や地域支援の制度がすべて行政でできるとは思いませんが、ある程度力になってあげると、始める人にはすごく力になると思います。

**【若葉区長】**

就農支援の中で、生活基盤で住むところが一番大事ということで、住むところといっても畑とか田んぼに近接していないとだめなんですか。

**【参加者 J】**

そうですね、アパートではちょっと……。

**【若葉区長】**

あと、農機具等を入れる倉庫も当然必要ですよ。今のところ農政センターではそういう支援のメニューというのはないですね。

**【農政センター】**

具体的に住宅に対してという形ではないです。基本的に農地の近くで住んでいただけるのが一番いいわけですけども、今後、そういう部分でも考えさせていただきたいと思います。

### 【若葉区長】

今、若葉区にも空き家が非常に多いです。団地の中もあるし、東部地域のほうでも結構空き家がありますので、そんな空き家をこういったことに活用できる制度が今後、検討できればと感じています。

それでは、一通り皆様方からご発言いただきましたけれども、これからは自由な発言ということでお願いします。まだちょっと話し足りなかった。行政にこういったことを言っておきたい、そういった方がおりましたらお願いしたいと思います。

### 【参加者A】

私は今、田んぼを一生懸命つくっているのですが、実際の仕事としましては、土木建築、農業、林業、不動産、飲食店、いろいろと手掛けています。ですが、今は田んぼ、米づくりに一生懸命になっているんです。先ほども耕作放棄地の問題が話題に出ましたが、なかなか田んぼを増やすのは大変なんです。やめる人があれば、そこに行って貸してもらったり、あるいは休耕農地でもあれば、何年も休耕した土地でも結構ですから田んぼについては借りています。現在もまた、ちっちゃい田んぼですが、休耕地を来年からつくってくださいというお話があります。

でも、中には幾ら頭を下げて借りに行っても、地元の農協さんに頼んで話をしてもらっても、お手上なこともあります。そういうのがありまして、行政や農業委員さんなども、そういう耕作を放棄された土地の持ち主さんになるべく、遊休化しないようにという指導もやっぱり必要かなと思います。田んぼより畑はいっぱいあるんです。畑は遊休農地がいっぱいあるんですが、田んぼに限ってはあまりないんです。まして、耕地整理をやった場所での休耕地というのはごくまれなんですけども、そういうごくまれで悪いところでも借りてつくりますので、行政、あるいは皆さん、そういうのを紹介していただきたいなと思います。

全部農業委員会、農政課に届けまして、6年契約、10年契約、そういう契約をした上で耕作いたします。それで私、自分のつくったお米は「若葉の舞」というブランド名で販売しております。自宅で電話注文、地域にチラシを配って電話注文で5キロ、10キロ配達。あとは、下田の直売所。あとは、リブレ京成3店舗、タカヨシ4店舗、これからまたあと直売所の別の場所も検討しています。そういう形で私のつくったお米を「若葉の舞」という商標をつけて売っています。一応特許庁の登録も通りましたので、それで売っています。

また、今年からは田んぼの転作ということで、米粉を一生懸命にひいて、これは「しょいか〜ご」さんにも置いてもらっていますが、そういう直売所等で売らせてもらっています。米粉の転作、米粉と、それから飼料作物にするのが田んぼの転作としては一番いいお金がもらえるんですけども、ただ、単なる米粉の転作として米を製粉業者に売るのであると、米がくず米の値段ぐらいしか売れないんです。

そうすると、その差額金を補償してくれるということで結構高い補償金、だから転作の補助金になるんですけども、うちの場合はそういう製粉業者に売るんじゃなくて、自分で最新式の機械を買って製粉して、それで各直売所とか、そういう販売店に出して売っております。

あとは近所の田んぼを直してくれとか、そういうこともどんな悪い田んぼでも借りて、悪い田んぼは自分で暗渠をやったり、小さい田んぼは自分で2枚、3枚を大きくして直してつくったり。例えばこの辺ですと千城とか、千城地域あたりには結構耕地整理をやっていない田んぼがいっぱいあるんですけども、行政や農協さんが取りまとめてくれれば、一括して借りてもいいですよ、自分で整備やっつけてもいいですよということを以前、農協の会議などでも言ったことがあります。でも、あっちに田んぼ、こっちに田んぼという田んぼではどうしようもないですけども、ある地域をまとめてくれれば、自分で耕地整理をやっつけてということまで考えていますので、そういうよきそうな休耕地といいますか、そういう可能性のある田んぼでしたら借り受けしますので、またよろしくをお願いします。

【農政センター】

ご自身の耕作範囲はどこまでやるのでしょうか。

【参加者A】

現在は、小間子の小谷流、あと中野、それから高根ぐらいまで行っています。

あとは刈り取りだけの依頼ですけども、浜野に行っています。

【農政センター】

浜野に。そうすると、ご自身がライスセンターを経営しているという感じを私は受けたんですが、そうではないのですか。

【参加者A】

うちはライスセンターの仲間に入らずに、個人でやっています。現在、13町歩ぐらい耕作しています。

【農政センター】

そうでございますか、意見は十分にわかりました。

【参加者A】

その中で、自分の持ち田が3分の1、あと3分の2ぐらいは借りています。

【農政センター】

では、それは私ども農政センターも意見を伺いましたけども、ご意見につきましては農政部で情報を共有させていただきます。

あと、1点、先ほど話題に出ました耕作放棄地のドリフトの関係です。あれはすごく今、農家の方で

は問題になっていて、高齢化も進む中、自分は一生懸命やっているんだけど、隣の畑の人は耕作しなくなってしまう、特に今年の夏なんかは猛暑でしたから、虫が大発生してしまったという場合にどうするか。

それで、一つの手法なんですけど、その近隣の方に市民農園はどうかという持ちかけをするのもいいんじゃないかと思います。あとは、共同で草刈りをやるとかという一般的な手法になってしまいます。一つの手法としては市民農園をご提案します。

それと、畑の団地化を図って、集約を図って、集約農業をやっていくという手法もあるかと思いますが、ポジティブリストに基づいたドリフトの問題というのは、もう完全に食品衛生法の中で決まっていますから。「しょいか〜ご」さんでも抜き打ち検査なんかをやって出た場合は、その部分は出荷停止になってしまいますから、すごく難しい問題があると痛切に感じましたので、我々も考えていきますし、近隣の地権者の方に、1反歩、2反歩であれば、市民農園も意外といいんじゃないのと。ちょっとアドバイスするといったのも対応策の1つかなと思いましたので、意見を言わせていただきました。

#### 【若葉区長】

参加者Aさんにお尋ねしますが、今、田んぼを13町歩やっていて、これからもっと増やしていきたいということですが、これはちょっと立ち入った話ですが、借りるときは、借り賃とかはお払いになっているんですか。

#### 【参加者A】

通常の場合は払っております。

相手次第ですけども、お金で欲しい人はお金、あとは物で、お米で欲しい人もいますから、そうするとお米。最近では地代が安くなって、通常の価格ですと1反歩1俵というのが現在の相場らしいです。でも、以前から借りているところにつきましては、1反歩1俵半。今年、1カ所、何日か前に話があった分は、ちっちゃい、耕地整理してあっても1反歩足らずの田んぼで、それはきれいにして耕作してくれればいいということなので、使用貸借ということで契約しようと思っています。けれどもそれは、地主さんがただきれいにしてくれるだけでいいと。背丈以上の草ぼうぼうですから、今検討しているのは使用貸借なんですけれども、通常の場合でしたら、お支払しています。

#### 【若葉区長】

すると、自分の家の周りに田を増やすのが難しいというのは、資金の話よりも場所がないということなんですか。

#### 【参加者A】

場所がないということです。田舎の年寄りの方はなかなか田んぼをやめようとしません。そうすると、

子供が勤めをしながら自分の、まだ退職までいかないうちでもボーナスなんかを機械代金に充てて機械を買って親の仕事を手伝っているというのはまだ結構あるんです。5反歩、1町歩の田んぼで機械を買って、採算は合わないのですけども、どうしても親がやっている手前上、多少赤字でも自分の勤めたお金を追加してでも機械を買ってやっている人がいる。やめる人が少ないというのと、中にはせっかく機械があるんだから、もう1枚、2枚はつくってみたいという人もいて、田んぼを買うライバルというのも結構いるんです。だから、うちなんかは、売ってくれるものは買うし、貸してくれるものは借りる。買ったたり借りたり、両方やっています。

**【参加者D】**

田んぼの場合は、トラクターが入って、水が自由になれば、1年で復田できるんです。

ただ、地盤が悪くてトラクターが入らないところは借り手がなくてどんどん荒れていって、千葉の場合、都川近辺、小倉方面、あの辺も相当続いてきました。

それと、畑のほうですよ。休耕畑が荒れて、先ほど話題にありましたように周りに迷惑がかかっている。これを若葉区もどうしたらできるだけ少なくできるか、これから皆さんとともに考えていく一番の問題じゃないでしょうか。

**【参加者A】**

現在、農協の青年部の人々が、まだ始めたばかりですけども、そういう休耕地を借りて野菜をつくっているということを試み始めているところです。

**【参加者D】**

先ほどお願いした新規就農ができるだけ5反、1町と広げていければ、そういう荒れた畑も少なくなってくると思いますので、そういう支援をしながら、少しでも荒れた畑、田畑を美田にするという方向に私たちも努力していきたいと思いますので、市政の方もよろしくご理解願いたいと思います。

**【参加者A】**

農協も野菜が足りないと言っていますから、皆さんに一生懸命つくってもらって、よそから来た野菜を使わずに地産地消ということで、特に千葉県の場合の地産地消は、「地」を千葉県の「千」にかえて、「千産千消」とうたっているところもありますから、千葉県のを千葉県で使う、もっと狭く言うと、千葉市でつくったものを千葉市の人に食べてもらうということで、うちの直売所でも学校給食の食材なんかも地産地消、地元でとれたものを地元の人に食べてもらうということを一生懸命、努力しているところです。

**【参加者D】**

地産地消の問題ですけど、農林水産省関係の会議に出ましたけど、学校給食の場合はカット野菜が多

いそうです。地産地消、特に給食を広める場合、地元でそういう業者を誘致するような前向きな姿勢じゃないと野菜は使われていかないとしますので、その辺のご検討もよろしくをお願いします。

【参加者A】

現在は、学校給食では、3割ぐらいは地元の食材を使いなさいということが言われているらしくて、全量を市場の、よそから来たものを使うというわけにいかないらしいです。地元のものを使いなさいということらしいのです。

【参加者D】

野菜の場合はいいけど、やはり果樹とかという特殊なものは。

【参加者A】

地元にないものもありますから。ですから、現在は、野菜も含めて、果物も含めてですが、3割ぐらいはということで、全部というところまでいかないんですね。

【若葉区長】

それでは、先ほどから主に米とか畑のお話が出ているんですけど、参加者Eさんは、160頭の乳牛を飼育されており、3代にわたって畜産を営んでいると聞きましたが、160頭の乳牛を飼育しているというのは非常に大変だと思います。先ほどもお話がありましたけれども、何か他にお話がありましたらお願いしたいと思います。

【参加者E】

先ほど貿易の自由化の話が出たんですけども、酪農の場合もそうになると、内地の酪農はほとんど壊滅しちゃうという状況があります。今、千葉県のある組合を1つにするような作業に入って、ひとつ千葉酪さんを生産者の唯一のプラントとしてやっていこうというような。それで、地元の生産した牛乳を千葉県の消費者に、目の見える形で販売したい。大手乳業とかというところを使わないで、そういうのに力を入れていくということで取り組み始めたところにTPPの話が出てきているもので、非常に設備に投資もかかるし、生き物ですから、すぐに方向変換ということができないもので、現状は、先が見えないもので、なかなか思い切ったことができないということです。

それと、もう一つ、循環型農業というと、やはり畜産は必要であり、優良な堆肥をつくって、それを還元していくというのが理想なんですけれども、現実の問題としては、耕種農家の皆さんが納得されるような堆肥を作るというには、ほんとうに人一人がついて作らないと、満足していただけるような堆肥はできないのが現状です。それと、いろいろと千葉市から補助を受けて、畜産農家もふん尿処理施設とかというのを入れて、つくったんですけど、完璧なものというのはお金をかけても切りがないということで、そこにかけても、それがいわゆる収益を生むものではないということで、なかなか、今後は環境

問題というのが非常に難しくなってくるかなと感じています。

最近では、畑を耕作するので、ロータリーかけて耕していても、雨が少なかったですから、風が吹いてほこりが行くと、すぐ苦情の電話がかかってきちゃう。洗濯物があればとか、そういったのがいわゆる農林振興地域でも起きてくるし、またいろいろ資材置き場だとかいろいろなそういうものができてきて、そこにまた人がいると、そういった人から、音だとか何とかにすごくクレームが入ってくるというか、非常に肩身の狭い思いをしているところもあるんだと思います。

いろいろあった場合に、農政センターとか市のほうとか、そういうところに言ってくれればいいんですけど、今は、車あるいはオートバイだとか自転車だとか、一般の方が平気で入ってきちゃいますので、その方たちが、すぐ何かあると通報してしまうとか、想定しないようなことも出てきていますので、現状は、畜産農家は特に環境問題が非常にこれから難しいかなと考えています。

ただ、都市近郊で循環型の農業をやっていくには、ある程度の畜産農家がいる、そこでそういった堆肥が生産できないと、なかなかいい土づくりはできないのではないかと考えていますけれど、現状は非常に、難しいところです。

#### 【若葉区長】

ありがとうございました。今のことについて、農政センターさん、何かございますか。

#### 【農政センター】

牛は、乳牛は大体1頭当たり1日40ℓぐらいのふん尿を排泄します。幾ら市の補助金があったとしても、半分近くは自分が払うわけですから、数千万かけてそれを導入して、まさにおっしゃるとおりそれが利潤を生まない。さらには、人手がかかってしまうという。農家の、畜産農家にとってはすごくジレンマがあるわけです。

ただ、私個人的な意見を言わせていただければ、そこまで終了して1つの産業じゃないかという気はしております。気にはしているんですけども、家族の構成ですね。ご自身と奥さんと2人でやって40頭飼っていますよと。そうすると、どうしても機械の調子が悪いときやなんかは停めて、どこかに一時ストックしておく。たまたまストックした時点で、そういう理由がわからない市民から強く意見を言われてしまう。農政センター、もしくは警察に言われてしまう。すごく困って、苦情を言われる市民さんと、それにちょっとびっくりしちゃう農家さんという感じが。悪循環ですね。

だから、我々としては、センターに市民さんが連絡していただければ、農家さんに行って、農家さんの現状を見て、「堆肥ですね」ということで、「すぐ耕運してください」。要するに、機械の調子が悪いとき、どうしてもふん尿は1頭40リットル近く出ちゃいますから、どうしてもしょうがない場合は、「まいたらすぐ耕運してください、苦情が出ちゃいますよ」ということで指導しておりますけれども、



それでも完璧な堆肥をつくって、販売するというのはなかなか難しいです。ホームセンターやなんかで売っていますが、あれは専門会社がつくっているのに近いんです。だから、畜産農家さんがそれをつくって販売するまでというのは、非常に高度な技術も必要になってきますから、その折り合いを耕種農家とどうやってつけていくというのうちのほうの役目だと思っています。

土気の酪農家さんなんかだと、耕種農家との連携をつけて使っているというところも、要するに完全堆肥じゃなくてもいいよと、中肥でもいいよと、うちのほうはそうやって加工するよと、使うとき加工する、もう一回自分の使い勝手に加工するよという農家さんが耕種農家さんであれば、すごく畜産農家さんも助かるし、耕種農家さんも安く購入できる。そういうシステムづくりというのを、うちのほうが怠けないで一生懸命やっつけていこうと思っていますので、よろしくをお願いします。

【若葉区長】

ありがとうございました。ほかにご意見はございますか。お願いします。

【参加者F】

区長さんに聞きたいのですが、前市長は、スローガンみたいなことで「花の都・ちば」ということでやっていました。今の市長さんは、そういうやつはないんですか。

【若葉区長】

「花の都・ちば」というのは前市長時代から都市イメージの確立などに向けて取り組んできました。今の市長は否定はしておりませんが、そんなにも固執しているわけでもないです。

【参加者F】

遊休農地が多いというのはさっきから出ていますが、当然高齢化していますから、どんどん増えているんですけど、いつときこういふ農業者会議で、前市長さんが言った「花の都・ちば」というのを推進するという話が出たときに……、花の美術館とか、そういう箱にお金をかけるのがいいんじゃないんだよと。農家をうまく利用しなさいと言ったんです。道路づきの人に、農地を持っている人に花の種を配って、花の種を蒔いてもらいなさいと。今でも、毎年のように花の種を道路づきに蒔いているんです。

そうすると、環境面も、まき始めたのは幾つか理由があるんですけど、まずうちなんかは団地の隣にありますので、当然きれいに見せてやるというのが1つと、それと犬なんです。犬の散歩で、土地に犬は入れる、犬がふんをするので困るので、始めたんです。当然若葉区の美化にもなるし、遊休農地のそういう道路際とか何かちょっとやってもらえば、少しは改善されるんじゃないかという気もするんです。そんなにあまりお金もかけないで何とかなるといふ方法も1つの手なんですけども、そういうことも考えていったほうがいいんじゃないかという気はするんです。

**【若葉区長】**

わかりました。ほかにご意見はございますか。どうぞ。

**【参加者J】**

遊休農地や田んぼという話がすごく出ていますが、行政では、例えば空いていると見られる畑とか家とか田んぼとかの情報をどれぐらい入手して、どこまで管理できるのか。地元の人はその近くのものかわかると思うんですけど、ちょっと離れると全くわからないというのが現状だと思うのです。

これから例えば新規に参入する人や、あとは土地を広げて営農したいという考えを持っている人に対して、どこまで情報を開示したり、それを所有している人の意識はどうかというのをどこまで調べて蓄積できるのか。今後、それができる……、もしくは検討の余地はあるのでしょうか。ちょっと変な、漠然とした質問ですけどお願いします。

**【農政センター】**

遊休農地の調査につきましては、農政課ですべてやっております。遊休の耕作されていないと思われる農地の調査はしております。

それをイコール新規就農もしくは農業拡大のための土地に使えるかということ、それはやっぱり地主さんの考えがございまして、すごく難しいのは、遊休農地イコール借りてもいいじゃないかということ、日本の農家というのはすごく土地に対する愛着心があるんです。先ほどおっしゃられていましたけども、お年寄りが亡くなっても息子さんが田植えをしているというのは、先祖から受け継いだ土地を貸しちゃうと、取られちゃうような気がするという。実は違うんですよ。農政課とか農業委員会が入っていれば、ちゃんと契約書もできるし、何年後で返ってくるんですけども、それが昔の法律の耕作権というのがまだ勘違いしている部分があって、そういうのがなかなか理解されていかない。だから、その辺を十分に理解していくセクションとして農業委員会さんとか農政部がある。その辺で新しい人がよりよい農地を使いたいときに探して紹介してあげるというシステムは、当然必要でしょうね。

ただ、何遍も同じことを言いますけれども、土地に対する愛着心というのは、意外と日本人は強いんです。だから、その辺は、あいているからいいじゃないか、使ってもいいじゃないかではなくて、やっぱりお互いにご自身が行って、間に農業委員会とか農政課が入ったときにも、借りる側、貸す側のお互いの信頼関係も、幾ら契約書があっても必要になっていくんじゃないかと思っています。答えにすべてなっているかわかりませんが、そのように考えます。

**【参加者E】**

先ほどからいろいろ意見が出ていますが、これからの千葉市の農業を考えていくと、生産物というのはかなりあると思います。それもかなりブランド化したものでなくても、今、生産者は厳しい

品質管理をしていて、我々は、自分たちが口に入るものを生産しているとほんとうに自信を持っています。あとは、千葉市の場合に、消費者の方がすぐ近くにいるんですけど、なかなか、千葉市で生産しているものについてそれ程の信頼がないのか、その辺はわからないんですけど、まだまだ買っていただけていないというのが現状ではないかと思うんです。

ちょうどバランス的に千葉市の場合、そういう消費地と生産地がうまい感じであると思いますので、消費者の方に品質などについても理解していただいて、千葉市でできたものを買っていただけるようになるなどして活性化していかないと、なかなか難しいのかなという気がします。ぜひその辺は行政にも、そういった機会を積極的につくっていただければと思います。

#### 【若葉区長】

消費者の理解を得るということで、若葉区と正反対の地域性を持つと思われるのが美浜区です。美浜区には農地がほとんどありません。今後は美浜区の関係者と若葉区の農業関係者、こういった皆様方を含めて意見交換などをやっていきたいと考えております。そういった中で、消費の拡大、地産地消の拡大ができればと思っております。

#### 【参加者D】

美浜区はマンションのレベルだから、若葉区の農家を中心に話をするのはちょっと難しいんじゃないかな。小倉団地とか近場の団地の有志だったらまだわかりますけど。

#### 【若葉区長】

これは、農産物の消費についての話です。美浜区でも市民農園をやりたいという人が結構います。若葉区には多くの市民農園があるので、そういったことも含めてお互いに意見交換などができればよいということで、美浜区長さんからもお話がありました。

#### 【参加者D】

そういう内容があれば結構だと思います。

#### 【参加者C】

これまで、皆さんの意見を聞いていて、農業というのは今、大変だなという思いはしております。けれども、その中で、例えば地産地消ですけども、前にも言ったんですけど、例えば千葉市内の市民が食べるだけの米を千葉市内で生産が間に合わないと聞いています。そうしますと、千葉市内の農家がつくった米は千葉市民が食べても足りないぐらいなのです。現実には全部そういう制度になっていませんけれども、地産地消の中で、私は特に花をつくっていますけども、今、だれに売るかというのが一番問題になっています。花も米もそうだと思うんです。ですから、先ほど区長さんが言われたように、美浜区の人と対話集会。この中に市民がいたら、生産の現状の話を市民・一般の人・買うほうの人に、わかっ

てもらわないと、高い安いという話がまず最初に出してしまうんです。

この前、テレビを見ていましたら、米が10キロで普通の5倍ぐらいの値段でも売れているんです。どこにどうやって売るかということは生産する側の責任で売らなきゃいけないとは思っています。ですから、できればしょいか〜ごさんあたりが千葉市内の米なら米を集めて、全給食に使えるとか野菜も賄えるとか、そういうふうに一本化していただけるといいのかなと思うし、そうすれば安全な野菜はつくれますよということで、どこか一つ窓口が欲しいんです。

窓口は欲しいけども、こういう対話会をする時に、市民・一般消費者にも入ってもらったほうがよい。我々の内部だけで話をしているような感覚で、外には出ていかないんじゃないかという思いがする。やはり現状を理解してもらわないといけない。

あと、もう1点提案したいのは、私は花をつくっているし、花には袋をかけて出すんですけども、農産物、包装紙に、千葉市のキャラクターである「ちはなちゃん」。あれを全部につけますと、これは千葉市のものだと一目瞭然でわかるわけです。それぞれ各農園においては、自分の家のマークとかをつけておりますけども、例えば東京市場に行ったときに、ちはなちゃんのマークがついて、「あれは千葉市のものだ」とすぐわかる。そういうPRの仕方も行政にお願いしたい。

今後、若葉区の農業を盛んにするには、やっぱり自分たちのつくったものをより付加価値をつけて売らなきゃいけないし、よりよい条件の中で売らなきゃいけないのにはどうしたらいいかということを考えていかなきゃいけないと思う。

現状は問題がいっぱいあるけども、それを1個ずつでも解決していかないと伸びていかないと考えていますし、どうしたらいいかというのは、行政と我々生産者、あるいは消費者、あと農協等も入った中でより検討していかないといけないと思っています。

千葉市、若葉区の土地が荒れている、先般、藤沢のほうへ行ったときも、千葉市よりもあれだけ都市化されている中でも放棄農地がたくさんある。しかし、藤沢は荒れていなくても、トラクターで年4回か5回、かき回して、草が出ていなくても耕作放棄地だというイメージを持ってしまっていて、実際、そこに作物をつけなくて、明日からでも作物がつかれるようなきれいな畑でも耕作放棄地だという感覚を持っています。

ですから、千葉はまだちょっと甘いという認識でこの前、帰ってきましたけども。我々のほうはつくる側ですので、つくる側の責任において販売していかなきゃいけないということは我々、自覚しておりますけども、その中で、自分たちだけでやったってどうしようもないというところがあるので、それは行政の応援もいただきます。行政の応援というのは、先ほど関税の問題にしても、あれは大きな世界的な流れですからとめようがない。幸いにして、花はずっと関税ゼロですから、もし来ても問題は起きな

いでしょうという話にはなっていますが、農業全体が衰退していけば、花のほうも落ちてきます。ですから、我々は、花は主食とかというのじゃありませんけども、主食とか、要するに穀物、あるいは畜産等において頑張っていたかかないと、我々のほうも伸びていけないと思っております。

**【若葉区長】**

ありがとうございました。ほかにはご意見はございませんか。

もしなければ、このあたりで会議を終わりにしたいと思います。

先ほど消費者の話が出て、こういった会議に消費者の方も入っていただいたほうがいいというご意見もありました。一概には言えませんが、日本の消費者というのは安さを求める傾向が結構強いんですね。安ければよいということでは、すぐ輸入品などに流れてしまうという状況もあって、日本の食料は約6割が輸入品という状況になっております。これからは千葉市民、あるいは若葉区の区民みんなが若葉区の農業を支えていくという意識改革も必要ではないでしょうか。その1つが地産地消の推進であると思っております。

そういったことで、今回、たくさんの意見をいただきましたが、若葉区の基本計画でも今後、「都市と農村との交流の促進」「地産地消の推進」「農業・農村の魅力向上」、こういった3本柱の位置づけを予定しております。本日、皆さんからいただきました、たくさんのご意見・ご提案は今後の事業計画や、本庁を含めた行政運営に活かさせていただきたいと考えております。

本日は、どうも長い間、ありがとうございました。

**【事務局】**

以上をもちまして、若葉区区民対話会を閉会させていただきます。

どうもありがとうございました。

— 了 —